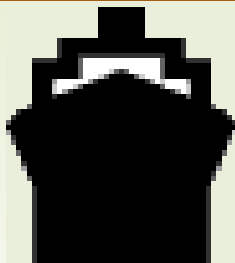
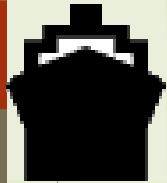


可塑性グラウトを用いた重力式 係船岸の増深工法について



令和6年

2月9日(金)

14:00~15:45

参加費
無料
事前
登録制

令和5年度
第1回

実りある学舎

講師

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 地盤研究領域
上席研究官

水谷 崇亮 氏

形態
・
定員

ハイブリッド開催
(会場聴講 30名+オンライン聴講 100名)

主催
・
開催場所



国土交通省

中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所
(広島市南区宇品海岸3-10-28 5階会議室)

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。



CPDプログラム認定：JSCE24-0017〔1.7単位〕
※土木学会で証明する単位が、各団体のルールにより
認められないことがあります。



お申し込み方法

下記 [https](https://forms.office.com/r/h58eKwqKbC) または右のQRコードから、【必要事項】①~⑧をご記入の上お申し込みください。

<https://forms.office.com/r/h58eKwqKbC>

【必要事項】①氏名 ②ふりがな ③所属 ④住所 ⑤電話番号 ⑥E-mail
⑦参加形態 ・会場 ・オンライン
⑧CPDプログラム申請 ・希望する ・希望しない



※個人情報、本講演会の開催目的以外には使用しません。

※ 締切 1月31日(水)

実りある学舎とは

最新技術に関する情報収集や発信の場として、また学識経験者や各分野のスペシャリストから知識を学び取り、技術力の向上や効率的な事業展開につなげる場として、「実りある学舎」という講演会を毎年開催しています。

参加費無料でどなたでも参加して頂けますので、この機会にぜひご参加下さい。

講演概要

岸壁の前面水深の増深は、岸壁改良の主要な目的の一つであり、近年、検討事例が増加している。しかしながら、岸壁の増深改良工事は大規模な事業になる場合が多く、実質的に全面再整備の態をなすこともまれではない。特に重力式係船岸においては、海底地盤の掘削がただちにケーソンの不安定化につながるため、増深は容易ではない。

一方で、ほんの数メートルの増深ができれば十分というケースもしばしば見られ、増深量は限定されてもよいので比較的簡易な方法で重力式係船岸を増深できる工法、というニーズが存在する。このような状況下で、重力式係船岸のケーソン直下の捨石を部分的に改良し、前面側の捨石や海底地盤を掘削することで比較的容易に増深することができるのではないかという着想が生まれ、平成21年度に開始された港湾空港技術研究所と日本埋立浚渫協会との共同研究を皮切りに、基礎的な研究、設計・施工方法の概略検討、実証試験、実岸壁における試験施工などが実施されてきた。粗粒材である捨石を改良するためには、通常的地盤改良工法が適用できないため、本工法では可塑性グラウトを用いることが提案されている。

本工法は未だ実事業への適用事例はないものの、今後ますます増加するであろう重力式係船岸の増深改良に対する有望な工法として注目されている。本講演では、これまでに実施されてきた検討内容を紹介し、あわせて本工法のメリット・デメリット等について概説する。